西蒲南部地区婦人バレーボール大会
岩室チーム準優勝

去る七月十五日、岩室中学校体育館で西蒲南部地区四ケ町村親善婦人バレーボール大会が行なわれ各町村二チームづつ八チームによって熱戦を展開いたしました。

ABブロックに分かれリーグ戦を行ないそれぞれのブロックの一位どうしで決勝、二位どうしで三位決定を行なったものです。

本村チームはAブロック一位で決勝に進出、弥彦チームと対戦おしくも敗れ、準優勝いたしました。

毎夜の練習の成果が栄えある準優勝という結果を生んだもので猛暑の中、最後まで健闘した選手に拍手を送り、今後一層の活躍を期待いたします。

働く者の保護に
計画相談の実施

新潟行政監察局では、これまで出稼、在宅通勤などの季節労働者や中小零細企業の一般労働者から賃金不払、労災補償未支給その他労働者の生活を直接おびやかす苦情があとをたたないことから、このたび、各市町村に配置されている行政相談委員を通じてこのような苦情を広く計画的に収集することにしました。

次のような問題点でお困りの方は行政相談委員を通じて遠慮なくお申出下さい。

一、労働基準関係
。賃金（工賃）を払ってくれない。
。予告なしに解雇され、解雇予告手当を払ってくれない。
。女子、年少者に過重労働をさせている。
。職場の安全衛生設備が不備で、危険である。
。事業主が労災保険に加入しない。

二、労災保険関係
。事業主が保険給付の手続をとってくれない。
。事業主から労働基準監督署に保険給付の請求をしたがまだ通知がない。

三、失業保険関係
。事業主が離職票を発行してくれない。
。事業主が失業保険に加入させてくれない。
。常用的な勤務なのに身分が臨時、パートタイマーだからといって失業保険に加入させてくれない。

四、健康保険関係
。事業主が健康保険に加入させてくれない。

五、原生年金保険関係
。社会保険事務所に保険給付の請求をしたが、まだ通知がない。
。事業主が厚生年金保険に加入させてくれない。

六、その他
。職安等窓口職員の態度がおうへいで不親切である。
。職安の説明と実際の労働条件が違っている。

なお、岩室村では行政相談と住民相談を併せて相談所を開設して受付けるほか、自宅においても常時受付けいたしております。

相談日　毎月十日午後一時より
場　所　岩室村役場
相談担当者
行政相談委員　佐藤九三九
（電話二一三〇〇六）

□□□-□□ …記入していますか……
五年目を迎えた郵便番号 ……いっそうのご協力を……
□□□-□□

昭和四十三年七月に郵便番号制が実施されてから五年目を迎えました。

現在、全ての郵便物は郵便番号によって区分け作業をしています。

郵便番号による区分け作業は、機械（郵便番号自動読取区分機）が備えてある郵便局はもちろんのこと、機械の入っていない郵便局でも行なっております。郵便番号が記入されておりますと、引受けた郵便局から直接先方の配達局へ送られるため、それだけ早くお届けすることができます。

郵便番号を記入するときは、先方の郵便番号を住所録や郵便番号簿などで確めていただき、赤いわくの中からはみ出さないように一字一字ていねいに書いてください。

又、郵便番号は住所の一部として、ご自分の住所にもお書き下さい。

岩室村の郵便番号は
九五三―〇一　です
みなさんのいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

岩室郵便局

◦◦○○○○ 危険物（油類）の貯蔵取り扱い数量は ○○○◦◦

危険物を多量に所有することは大きな事故のもとです。

従来危険物の貯蔵、取り扱い数量は、火災予防上や行政上の規制等により、その数量が限定され、一定量以上は貯蔵や取り扱いができないことはすでにご承知のことと思います。

このような危険物の貯蔵取り扱い数量が改正されます。今まで日常特に使用されるものは、

一、危険物（油類）を所有できる量

ガソリン	
灯　油	二〇〇㍑以下
重　油	一〇〇㍑以下
	四〇〇㍑以下

この量を超える場合は、届出をしなければなりません。

また、建造物から二メートル以上を離すことが必要で、建物内に所有するときは、不燃材料で造った専用建物内に限ります。

二、許可を受けて所有できる量

ガソリン	一〇〇㍑
灯　油	五〇〇㍑
重　油	二、〇〇〇㍑

ただし、三倍までは、小口一般貯蔵として耐火造り（コンクリート、ブロック）の専用建造物内かまたは建造物から一〇メートル以上離れた空地に囲いをした場合に限り、所有することができます。危険物を多量に所有することは、大きな事故（人身事故を含む）のもとであるばかりでなく、処罰されることもありますので注意して下さい。

間瀬農集電話二局で、火事、救急の通報をするときは、ダイヤル〇―一一九番をまわして下さい落ちついて、場所と状況を連絡しましょう

第一回岩室村青年
県外研修に参加して

第一回岩室村青年県外研修派遣団員は、三重県各地での四泊五日間の研修日程を終え、去る七月十日元気に帰村いたしました。

村の青年団体活動の望ましいあり方をもとめて、真剣に話し合い研修を行なってきたもので、これからの活躍が期待されます。

池上　正一

このたびの研修に参加して感じた事を一言述べてみたいと思います。

松阪市では稲作よりも水耕栽培に全力を注ぎ、これからの農業の将来等について真剣に研究しておりました。

団体活動でも団員一人一人が調和のとれた組織の充実をめざし活発な実践活動が行なわれておりました。

磯部町でも同様で団員相互の連帯意識醸成のための活動プログラムが組まれ実践されておりました。

私はこの研修に参加して強く感じたことは、青年は自覚ある行動と規律ある生活が必要であり団体活動の活発化のためにはこれの達成が何よりもまして大切であろうかと思います。

今後関係者の皆様方と、意見交換をしながら、明日を築く岩室村の若い力として頑張りたいと思います。

坂田　雄二

僕が今回の研修に参加した目的は、曲り角に来たといわれる農業を今一度みつめなおすためです。

少しオーバな言い方かもしれないが、とにかく見て聞いて、話し合ったら何かつかめる、そう思ったからです。

四日間の事前研修を終り出発の前日には結団式をやっていただくなど本村が今回の研修にかける期待の大きさを新ためて心にとどめました。

七月六日三重県立鈴鹿青年の家に入所翌七日松阪市八日磯部町の青年とそれぞれ交歓いたしました。

気候等の関係で経営内容作付品目など大分違っていましたが、それぞれ農業に対しての意欲はものすごいもので、家業とは別に自分の専門の部門（主にハウス経営）を受けもち独立採算でやっているのには驚きました。

このような農業にかける青年の情熱が、そのまま団体活動にも反影し、非常に活発であり、充実しておりました。

青年一人々々が会員として自覚し、運営面についてもよく知っているし、「よくしょう、盛り上げよう」と努力している姿には感心させられるとともに活発化の「カギ」はこれだと痛感してまいりました。

駅で市の青少年協議会の青年と合流、松阪城跡で、自己紹介の後、マイクロバスで会員の経営部門メロン、トマト、キュウリの水耕栽培の外、シクラメン、シメジ栽培を見学いたしました。

今回の研修の貴重な体験が、今後自分の成長に大いに役立つと思うし、役立てなければならないと思います。

瀬戸川秀夫

松阪市へ着いたのは気温三十度を越える正午でした。

その内容は全ったく素晴しいものでただただ亜然とするばかりでした。

それよりも驚いたことはこれらの自己部門に自分の名義で数百万円の資金を借り入れ一さいの経営の責任をもってやっていることです。

そこには、すごい情熱が感じられました。

翌八日は磯部町へ移動、そこでもやはりタイプこそ違うが（前者は都会派、優等生タイプ、後者は農村派、エネルギッシュタイプ）やはり、自己の経営部門に対する情熱は私を圧倒するばかりでした。

とにかくあの情熱と何ごとにもハッキリ意志表示のできる人間性、私達は大いに見習いたいと思います。

竹内　二作

岩室村の代表として参加したこの研修旅行、僕にとっては初めての経験でありその責任の重大さに心の中は複雑な気持ちで一杯でした。

現地青年との交歓会、施設見学等、二日、三日と過ぎていくうちにやっと落ちつきが出てきたと思った頃にはもう岩室に帰ってきていました。

アッという間に過ぎ去った五日間……

他県で生活したこの貴重な五日間、数多くの青年と話し合い自分なりに次のように感じてまいりました。

ほがらかであり、思いきりがよく、仕事と遊びをはっきり区別しているということです。

話し方、言葉つきもやわらかく、楽しそうで、話しのポイントをうまく表現します。仕事の面でも家の仕事とは別に自分一人で借金をしがんばっているのです。

一見家庭の中がそれぞれバラバラのように感じられますが親子の親類は固く、親に心配をさせたことはないし、親も心配したことがないそうです。

今回の研修の経験は平凡な生活をしていた僕にとってこれからの人生に大きなプラスになっていつまでも残ると思います。

藤田　道雄

四泊五日間の研修を終え私は一段と事の重大さ、そして責任の重さを感じております。

松阪市、磯部町の青年との交歓会ではやはり団体活動における後継者及びリーダーの育成といったことが問題になっている反面、入会は自主性をモットーにしその会の意向にもとづいてそれぞれの責任を果していることです。

そして会の規約には罰則規程があり「本会会員で、本会に不名誉な行動をおこした場合は、役員会の決定により訓戒もしくは脱会させる」とあり、本村と比較し会運営についても考えさせられました。

私はこの研修の成果を自分ひとりのものにするのではなく村内の多くの青少年に伝え団体活動活発化のためがんばりたいと思います。

組野　秀英

私は、十八才、何んたって十八才。……何んでも見てやれ、聞えてやれとゆうことでこの研修に参加しました。

私達は、松坂市と磯部町のクラブ員達の経営見学と交歓会を行ない驚ろかされたことは、自分の経営と親の経営が違う点です。自分達は、自分の名儀で何百万円も借りて、ハウスを立て水耕栽培などを行ない、親は又親で、稲作等をやるといったぐあい。

仕事は、全員、努力、研究をわすれずに一生懸命やっている。又、遊びも仕事に負けず一生懸命のようですが、こちらと違う点は、やることはやっているので親は信用して何一つ言わないそうです。

話し合いのときは、全員オープンで本当に自分自身をさらけ出して話しかけてきて、私は、チョット面喰いました。県民性の違いと言ったらそれまでですが、なかなか私には時間がかかることと思います。

三重県人は、「伊勢こじき」と言われているそうですが「伊勢子正直」と反論していると「青年の家」の鈴木先生が言っていました。

実質四日間、三重の人達と接して見て、後者が本当の三重県人だと私は思えてなりません。

たばこは村内の小売店で買いましょう

・役場業務　八月十五日～十六日　休ませていただきます
・じん介収集　八月十五日　休ませていただきます